

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	ビジネスモデル・キャンバスとDEMO構成モデルにもとづく新しいビジネスモデル創出に関する一考察
Title(English)	A Study on New Business Model Creation Process Based on Business Model Canvas and DEMO Construction Model
著者(和文)	PratamaNovandra Rhezza
Author(English)	Novandra Rhezza Pratama
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11562号, 授与年月日:2020年6月30日, 学位の種別:課程博士, 審査員:妹尾 大,井上 光太郎,鈴木 定省,永田 京子,鍾 淑玲
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11562号, Conferred date:2020/6/30, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： 経営工学 系
Department of Graduate major in コース
学生氏名： Novandra Rhezza Pratama
Student's Name

申請学位 (専攻分野)： 博士 (学術)

Academic Degree Requested Doctor of Philosophy

指導教員 (主)：

Academic Supervisor(main)

指導教員 (副)：

Academic Supervisor(sub)

要旨 (和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本論文は、「A STUDY ON NEW BUSINESS MODEL CREATION PROCESS BASED ON BUSINESS MODEL CANVAS AND DEMO CONSTRUCTION MODEL (ビジネスモデル・キャンバスとDEMO構成モデルにもとづく新しいビジネスモデル創出に関する一考察)」と題し、ビジネスモデルに関する機能的表現を与えるビジネスモデル・キャンバスと、構成的表現を与えるDEMO構成モデルを結び付けて、新規にビジネスモデルを創出する方法論について提案したものであり、以下の8章で構成される。

第1章「Introduction (序論)」では、ビジネスイノベーションの創出が喫緊の課題であり、本論文の目的が次の3つの研究課題に答えることであることを記した。(1) 厳密な操作にもとづく新規ビジネスモデルの創出は、どのように行うことができるか？(2) 1において、価値命題の創出を、どのように行うことができるか？(3) 電気通信産業における新たなビジネスモデルの創出をどのように行うことができるか？の3つが研究課題である。(1)および(2)については機能的表現を構成的表現に変換し、構成的表現の分解と結合によって新たな構成的表現を開発し、それを機能的表現に変換するというアプローチをとり、また(3)についてはインドネシアにおける電気通信産業に提案手法を適用することにより、その有効性について示した。

第2章「Literature Review (文献レビュー)」では、ビジネスモデルの機能的表現および構成的表現についての既往の研究を取り上げ、特に本論文で採用する、機能的表現としてのビジネスモデル・キャンバスと構成的表現としてのDEMO構成モデルについて詳細に論じた。また、機能的モデルと構成的モデルおよびその間の変換について述べ、さらにe3valueと呼ばれる価値操作のアプローチについてまとめた。

第3章「Overview (全体像)」では、本論文で提案する新規ビジネスモデル創出の方法論の全体像をまとめ、例示として用いる、インドネシアにおける電気通信産業におけるビジネスモデルを紹介し、その機能的表現を与えた。

第4章「Business Model Canvas to DEMO Construction Model (ビジネスモデル・キャンバスからDEMO構成モデルへの変換)」では、ビジネスモデルの機能的表現であるビジネスモデル・キャンバスから、DEMO構成モデルに変換する方法について論じた。具体的には、ビジネスモデル・キャンバスからDEMO指向ビジネスモデル・キャンバスを作成し、そこからDEMO構成モデルを作成するというものである。さらに、例示として、Mobile Internet Packageを取り上げ、そこから提案手法に従ってDEMO構成モデルを作成することで、提案手法について具体的に説明した。

第5章「New DEMO Construction Model Generation (新規DEMO構成モデルの生成)」では、与えられたDEMO構成モデルに対して、それを部分モデルに分解し、得られた複数の部分モデルから、新たなDEMO構成モデルを生成する方法について提案した。さらに、例示として、インドネシアにおける電気通信産業におけるビジネスモデルのDEMO構成モデル群から、提案手法に従って、新たなDEMO構成モデルを作成することで、提案手法について具体的に説明した。

第6章「New DEMO Construction Model to New Business Model Canvas (新たなDEMO構成モデルから新たなビジネスモデル・キャンバスへ)」では、与えられたDEMO構成モデルから、ビジネスモデル・キャンバスを生成する方法について論じた。具体的には、初めに、DEMO構成モデルから、決定木を用いて前ビジネスモデル・キャンバスを作成し、そこから、ビジネスモデル・キャンバスを生成するというものである。さらに、例示として、第5章で新たに生成したDEMO構成モデルから、提案手法に従って、ビジネスモデル・キャンバスを作成することで、提案手法について具体的に説明した。

第7章「Value Operation and BMC Completion (価値操作とBMC完成)」では、第4章から第6章までの変換を通じて創出した新たなビジネスモデル・キャンバスの上に、「価値命題」に関する議論を重ねることで、新たに創出したビジネスモデルがどのようなビジネス価値をもたらすかについて議論した。さらに、例示として、第6章で例示したビジネスモデル・キャンバスに対して、「価値命題」に関する要素を補完した。また、提案手法にもとづいて新たに創出したインドネシア電気通信産業におけるビジネスモデルについて、複数の実務家へのヒアリングの結果、「銀行統合型モバイルキャッシュ」や「ホームシアター」など、本論文で新規に創出したものには、実装を検討中のものが複数あり、提案手法に対するきわめて肯定的な評価を得たことから、本論文で提案した新規ビジネスモデル創出の方法論は、学術的のみならず、実務的な貢献も大きいことを示した。

第8章「Conclusions (結論)」では、本研究の内容についてまとめるとともに、他の産業におけるビジネスモデルに対する適用、新規構成モデルを創出する際に意味があると考えられるビジネスモデルを検出することなどを今後の課題として挙げた。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note: Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： 経営工学 系
Department of Graduate major in コース
学生氏名： Novandra Rhezza Pratama
Student's Name

申請学位 (専攻分野)： 博士 (学術)

Academic Degree Requested Doctor of Philosophy

指導教員 (主)：

Academic Supervisor(main)

坪尾 大

指導教員 (副)：

Academic Supervisor(sub)

要旨 (英文 300 語程度)

Thesis Summary (approx.300 English Words)

This thesis proposes a methodology for creating a new business model by linking Business Model Canvas as a function model related to a business model and DEMO Construction Model as a construction model. It consists of eight chapters.

In Chapter 1, the creation of business innovation is an urgent task in the increasingly competitive environment of modern society, and the purpose of this paper is to generate a new Business Model by rigorous manipulation, create a new Value Proposition, and apply a case study of Telecommunication industry in Indonesia.

In Chapter 2, literature related to the research is reviewed, mainly Business Model, Construction Model, and Function, Construction, and Transformation.

Chapter 3 mentions the overview of New Business Model Creation Process proposed in this thesis, and introduces the case study of Telecommunication Industry in Indonesia and describes its Business Model Canvas.

Chapter 4 discusses how to transform Business Model Canvas into a DEMO Construction Model. A case study is used to explain the proposed method.

In Chapter 5, a given DEMO Construction Model is decomposed into submodels, and new DEMO Construction Model is created from the obtained submodels. A case study is used to explain the proposed method.

Chapter 6 discusses how to generate Business Model Canvas from a given DEMO Construction Model. A case study is used to explain the proposed method.

In Chapter 7, discussions on "Value Proposition" will be repeated on the new Business Model Canvas created through the transformation from Chapter 4 to Chapter 6. A case study is used to explain the proposed method. Several practitioners in the telecommunications industry in Indonesia received positive evaluations of the proposed method.

Chapter 8 summarizes the content of this research. It also proposes the future research.

In summary, this thesis proposes a methodology for creating a new business model by connecting Business Model Canvas, which is a function model related to a business model, and DEMO Construction Model, which is a construction model. There is a large contribution to academics.

「本論文は、東京大学大学院工学系研究科にて、平成28年度第1回修士論文発表会において発表された。

発表論文」

Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800

Words (English).

2025.5.18

(Signature)

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note: Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).